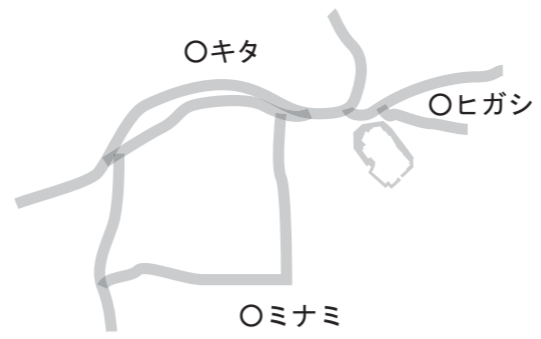


「やっぱりオレは、ヒガシで涼しくはたらきたいねん」
 「おれは、大阪の北東に位置し、寝屋川と第二寝屋川に挟まれた芝山のビジネスに特化したまち。一九六八年から計画がはじまり、大阪市や在阪の大手企業などの取り組みにより共同で建設され、スーパードックが導入されるなど当時としては非常に前衛的であった。」
 「ここは、梅田のキタ、難波のミナミに対し、「ヒガシ」と称される。街が完成して、二〇年経った今も一日4万人ものオフィスワーカーが通うまちとなっている。」
 「この場所は大阪の繁栄の象徴であり、大阪城の背景としても廃れてはならない場所だ。」
 「しかし、オーバーヒューマンスケールなまちの中で、それぞれのビルの外構には緑量が担保されてはいるものの街区ごとに孤立している。その為、滞留空間が分断されており、人と人の視線が繋がらない。」

二〇二一年、大阪におけるオフィス用途の床面積は過去最大になる。
 梅田北ヤード地区開発によるオフィスビル供給量は約5万平方メートルであり、これは二〇〇六年の十倍、バブル崩壊後の最大規模の供給量となっている。

一方、大阪には大阪ビジネスパーク（OBP）と呼ばれる大規模ビジネスタウンが存在する。OBPは大阪城の北東に位置し、寝屋川と第二寝屋川に挟まれた芝山のビジネスに特化したまち。一九六八年から計画がはじまり、大阪市や在阪の大手企業などの取り組みにより共同で建設され、スーパードックが導入されるなど当時としては非常に前衛的であった。



ここは、梅田のキタ、難波のミナミに対し、「ヒガシ」と称される。街が完成して、二〇年経った今も一日4万人ものオフィスワーカーが通うまちとなっている。

この場所は大阪の繁栄の象徴であり、大阪城の背景としても廃れてはならない場所だ。しかし、オーバーヒューマンスケールなまちの中で、それぞれのビルの外構には緑量が担保されてはいるものの街区ごとに孤立している。その為、滞留空間が分断されており、人と人の視線が繋がらない。

#ミッション# ヒートアイランド対策をすることでOBPをグレードアップせよ。

対象地 OBP（大阪ビジネスパーク）

ヒートアイランド対策

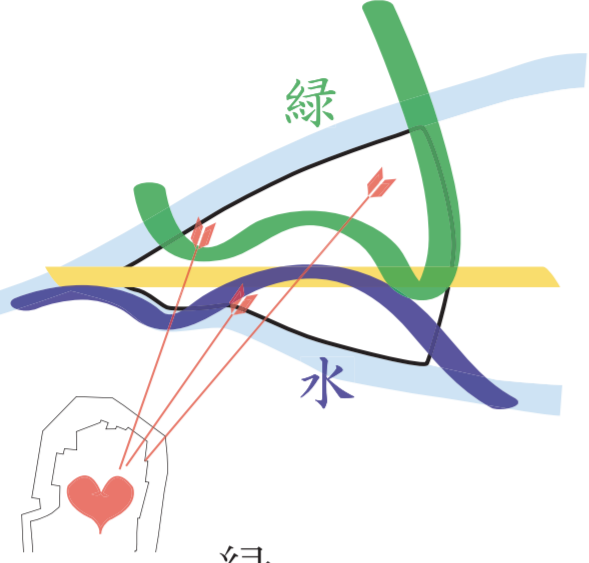
今まで行われてきたヒートアイランド対策として、①人工排熱の低減②地表面被覆の改善③都市形態の改善など「まちを冷ますこと」に対する施策は進められてきているが、「人の体感温度を下げる」為の対策はとられていない。

人が涼しく快適にまちの中で生活できるようにすることを第一に考えた。

オフィスの外に涼しくて、人々の賑いが見られる屋外空間があることで、外で生活する時間が増え、冷暖房の消費量低下に寄与する。

このように、まちレベルではなく、人の視点に立ったヒートアイランド対策を考えよう。

また、ヒートアイランド対策そのものを、OBPの新たな個性を創出するものとして位置づけ、二〇二一年問題を乗り越え、ビジネスタウンとしての生き残りを懸ける。



デザインコンセプト

動的でスケールの大きな河川を見せると共に、ヒューマンスケールの水や、静かな水をまち中に新たに挿入する。

大きく広がる水盤は、芝山から眺めたときの大阪城の前景となり大阪のシンボルをより際立たせる。

ビルのすきまの水路は、人と水のふれあいの場を与える。車打ち水は、主要車道に設けたうすい水盤であり、車が通過するたびに水をはね、まちを涼しくさせる。

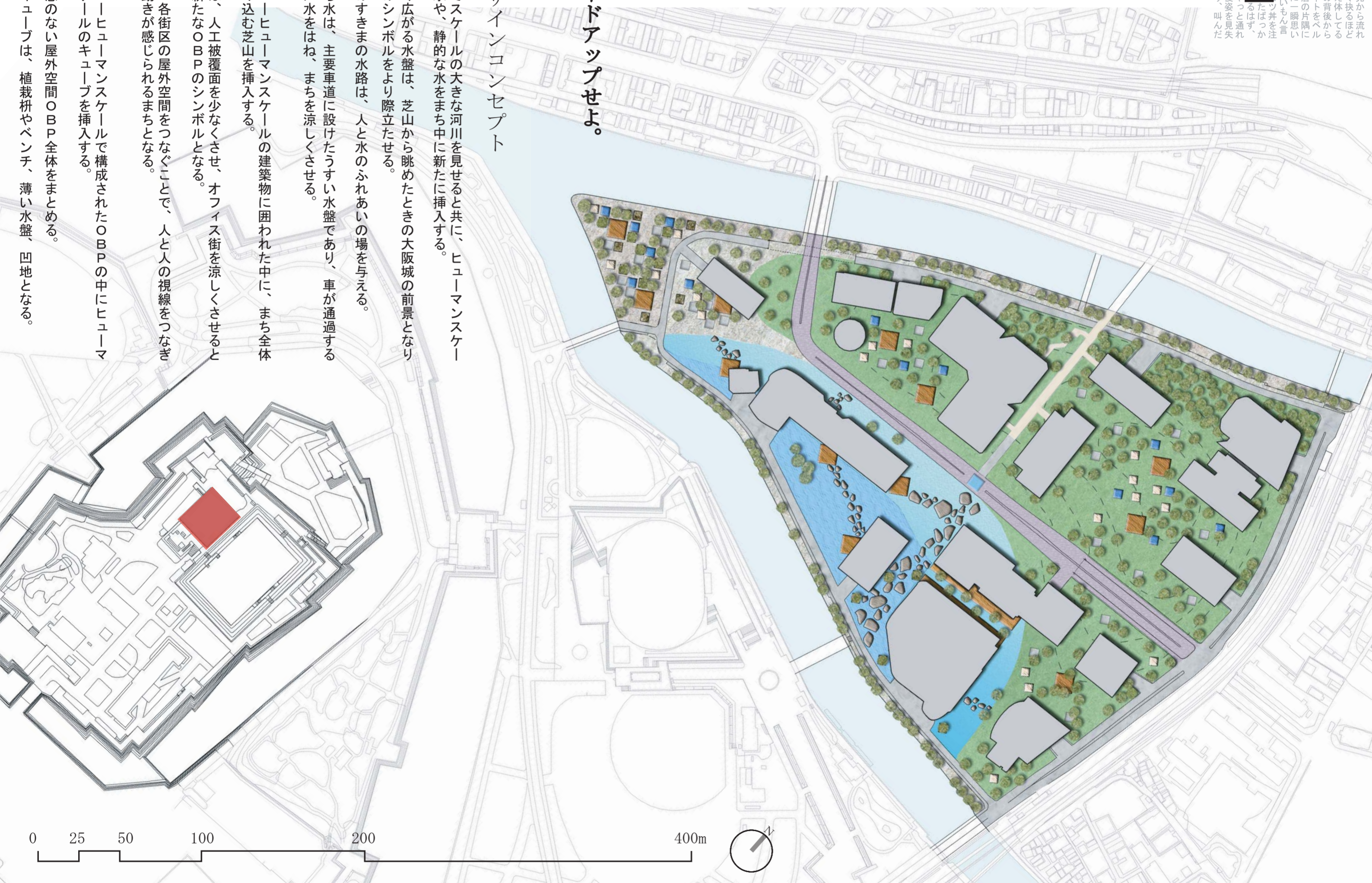
緑
 オーバーヒューマンスケールの建築物に囲われた中に、まち全体を包み込む芝山を挿入する。

芝山は、人工被覆面を少なくさせ、オフィス街を涼しくさせると共に新たなOBPのシンボルとなる。

また、各街区の屋外空間をつなぐことで、人と人の視線をつなぎ人の動きが感じられるまちとなる。

CU BE
 オーバーヒューマンスケールで構成されたOBPの中にヒューマンスケールのキューブを挿入する。

一体感のない屋外空間OBP全体をまとめる。このキューブは、植栽柵やベンチ、薄い水盤、凹地となる。



車打ち水。車が周囲に涼しさと潤いを与えてくれる。

大阪城。ビルとビルの間から垣間見える。

芝山。OBPの新たなシンボル。

水路。思わずスーツの裾をまくり、水の中を歩きたくなる。

剣先。なんととってもここが涼しい。